

住民意識にみる広域合併都市のイメージについて

福島工業高等専門学校 正会員 ○齊藤 充弘

福島県土木部 非会員 根本 智明

1. はじめに

近年、地域システムの大きな変化の一つに、市町村合併による行政区域の広域化をあげることができる。いわゆる「平成の大合併」により、広域合併都市が各地で誕生した。その理由や期待される効果は、主に行政側の事情に基づくものである一方、その地域で生活する住民の側からみた場合、合併により地域イメージのアップや活力向上等の効果を期待することができるものの、そのことをまちづくりへといかに結びつけていくことができるのかが課題である。特に、新しく広域化した地域においてまちづくりを進めていくためには、広く存在する地域資源をバラバラに存在するものとしてではなく相互に関連するものとして捉え、地域の個性やイメージを確立していく必要がある。

本研究は、合併の先駆けであり、合併後40年が経過している福島県いわき市を対象として、地域住民のもつそのイメージについて明らかにすることを目的とするものである。

2. 研究の対象と方法

本研究は、福島県いわき市を対象とするものである。いわき市は、1966年10月に5市4町5村が合併し、太平洋沿岸から内陸は阿武隈山系にまでかかる面積1,231.3km²の当時としては最大の広域都市として誕生した。人口は、351,763人¹⁾の中核市である。

この広域合併都市いわきに対する住民のもつイメージや考えの実態を把握するために、アンケート調査を実施した。調査の概要を表-1に示す。調査項目は、ケヴィン・リンチの「都市のイメージ」²⁾を基本として、その後積み重ねられた住民のまちに対するイメージや態度と両者の関係について分析している既往の調査研究³⁾を基に作成した。その上で、居住地区に着目し、住民のイメージより抽出されたエレメントについて分析することにより、いわき市としてのイメージについて追求していく。

表-1 アンケート調査の概要

対象地域	いわき市内14地域 平、小名浜、常磐、内郷、泉、好間、勿来、久之浜、四倉、小川、川前、三和、遠野、田人
調査項目	いわき市について ・思い浮かぶもの ・記憶に残るもの ・大切なもの ・どのくらい好きか(5段階) ・好きなもの ・嫌いなもの ・特色ある部分 ・変えたいところ ・いわき市の地図を書く ・属性(性別、年齢、居住地区、通勤・通学先)
回答形式	自由回答法・記入形式
調査期間	2006年10月～2007年1月
調査方法	集合・配票調査法
配布・回収数	334

3. イメージにみるエレメントの抽出

調査項目として設定したエレメントに関する7つの項目について、総計3,764のエレメント、被験者一人平均11.27のエレメントを抽出することができた。これを項目毎にみると、「記憶に残るもの」がエレメント数1,126(一人平均3.37)と他の項目と比較して多く想起された。その内容について分類した結果、「自然」と「気候・風土」について多く抽出された。さらに、抽出することのできたエレメントのうち、項目の総数に対して10%以上の割合を示すエレメントを「主なエレメント」としてみると、「自然」については、沿岸や山間地に位置する周辺拠点地区で多くのエレメントが想起されている一方、中央都市に位置づけられる地区では少ない傾向をみることができるように、地区毎に特徴が表れる形となっている。

4. イメージマップの作成

(1) エレメントの抽出

最後の調査項目として、いわき市のイメージマップを作成してもらった。そこで作成された各イメージマップについて、「都市のイメージ」をもとに、パス、エッジ、ディストリクト、ノード、ランドマークの5つ

キーワード 市町村合併, 広域都市, 地域イメージ, イメージマップ, いわき市

連絡先 〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30 福島工業高等専門学校 TEL0246-46-0830

に分類してエレメントを抽出した。イメージマップからは、総計 1,242 のエレメント(パス 210, エッジ 164, ディストリクト 426, ノード 267, ランドマーク 175) を抽出することができた。全体としては各地区を描く形のディストリクトが最も多く 34.3%の割合を占めており、多くの市町村が合併したという特徴が表れる形となっている。

(2) 地区毎にみるイメージマップ

作成されたイメージマップに描かれているエレメントのうち、地区毎に総エレメント数の 10%以上あげられているエレメントを抽出し、イメージマップとして表し、全地区分を重ね合わせたものが図-1 である。これをみると、太平洋に臨み、いわき市全体の輪郭が描かれた中にディストリクトとして合併前の旧市町村に相当する 14 の地区が描かれている。そして、常磐線と磐越東線の鉄道、常磐自動車道や国道 6 号と国道 49 号の主要幹線道路が描かれており、骨格を形成している。このように、重ね合わせたイメージマップは、いわき市の全体像が浮かび上がる形となっている。

(3) 想起エレメントとイメージマップの相関

想起エレメントとイメージマップの関連性を分析するため、両者のエレメント数を用いて相関係数を算出した。その結果について、相関係数が 0.5 以上の項目を示したものが、表-2 である。これらの項目について、想起されたエレメントのうち総計の 10%以上を占めるエレメントを抽出してみると、周辺拠点地区に位置づけられる久之浜・四倉地区では「思い浮かぶもの」として「海」と「山」が、遠野・田人地区では「記憶に残るもの」として「海」、「山」、「川」、「田」、「畑」、「自然」、「魚」、「故郷」、「友達」、「ハワイアンズ」と数多く抽出することができた。一方、中央都市に位置づけられる小名浜地区や湯本地区については、想起エレメントが多方面に及んでおり、10%以上のエレメントを抽出することができなかった。

5. おわりに

本研究の成果として、次の点をあげることができる。

第一に、想起エレメントを抽出し、地域の特徴を明らかにすることができた。市域全体として統一されたイメージというよりは、地区毎に地域イメージは異なっているのが現状である。

第二に、イメージマップより地域の特徴を明らかに

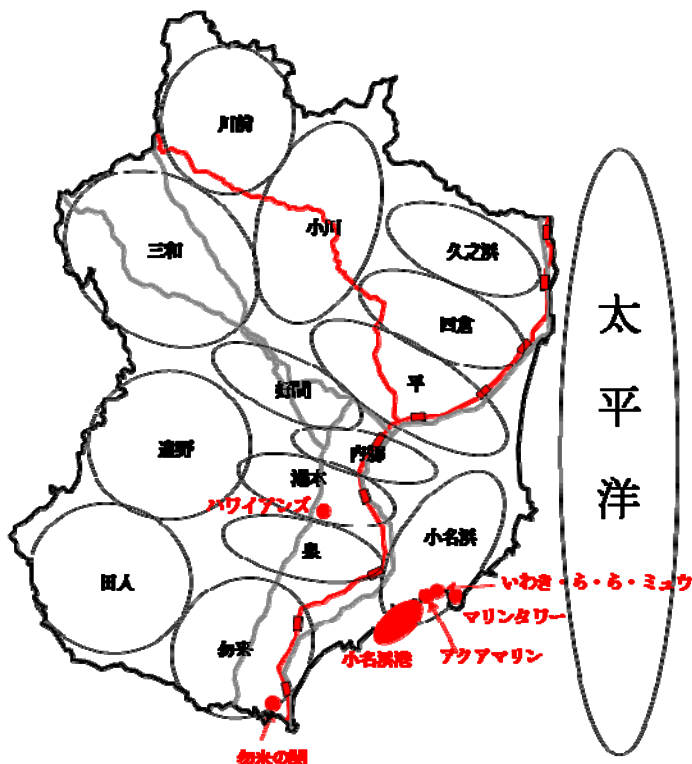


図-1 イメージマップの重ね合わせ(全地区)

表-2 想起エレメントとイメージマップの相関

地区	項目 (相関係数)	抽出エレメント
小名浜	嫌いなもの (0.74)	—
湯本	変えたいところ (0.57)	—
久之浜・四倉	思い浮かぶもの (0.60)	海、山
遠野・田人	記憶に残るもの (0.53)	海、山、川、田、畑、自然、魚、 家族、故郷、友達、ハワイアンズ

することができた。いわき市全体をイメージして作成することはなかなかできておらず、各地区を中心として作成する形が大部分であり、地区毎に地域の捉え方に違いがあるということがわかる。最終的にすべての地区のイメージマップを重ね合わせることで、いわき市の全体像が浮かび上がってきた。

最後に、想起エレメントと作成エレメントとの関連性を分析することにより、それぞれのエレメントの持つ意味合い(ミーニング)を明らかにすることができた。これより、みえてくる課題についても地区毎に異なることがわかった。

参考文献

- 1) 総務省：平成 17 年国勢調査報告
- 2) ケヴィン・リンチ：都市のイメージ，岩波書店，1968
- 3) Roger M.Downs & David Stea，吉武泰水監訳：環境の空間的イメージ，鹿島出版会，pp.145-148，1976